

H24年度滋賀大学健康セミナー開催



滋賀大学保健管理センター主催の健康セミナーを開催いたします！

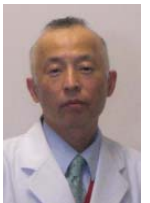
第1回

演題：「メタボ治療の新展開 ～脂肪由来ホルモン・レプチンの臨床応用～」
講師：日下部 徹〔クガトシ〕（京都大学大学院医学研究科内分泌・代謝内科助教）
日時：平成25年1月10日（木） 18：00～19：00
場所：大学サテライト・プラザ彦根（JR彦根駅前 平和堂アル・プラザ彦根6階）



第2回

演題：「がん対策の現状」
講師：李 正煜〔リジョンウ〕（彦根市立病院外科部長）
日時：平成25年2月1日（金） 18：00～19：00
場所：大学サテライト・プラザ彦根（JR彦根駅前 平和堂アル・プラザ彦根6階）



第3回

演題：「神経精神分析の展開—異分野融合としての：神経科学・精神分析・臨床心理学の接点」
～第2回 神経精神分析ワークショップ～

パネリスト：久保田 泰考（滋賀大学保健管理センター准教授）
成田 慶一（京都大学医学部附属病院探索医療センター研究員）
平尾 和之（京都文教大学臨床心理学部准教授）
岸本 寛史（高槻赤十字病院緩和ケア診療科医師）

日時：平成25年2月15日（金） 16：00～19：00
場所：滋賀大学大津サテライトプラザ（JR大津駅前 平和堂アル・プラザ大津5階）

★入場（参加費） 無料

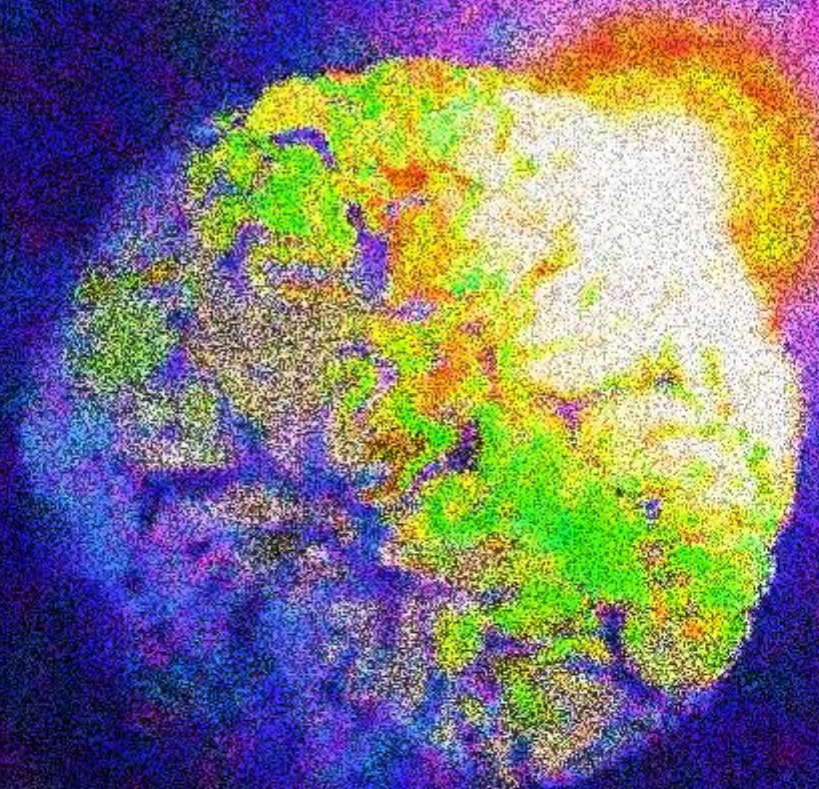
★参加希望の方は、電話またはFAXにて滋賀大学保健管理センターまでお申し込みください。
（TEL/FAX0749-27-1024）〔先着30名〕

多数のお申し込みをお待ちしております。



平成 24 年度滋賀大学健康セミナー
第2回神経精神分析ワークショップ

平成24年度財団法人 阪本精神病理学研究所医学研究助成



神経精神分析の展開
—異分野融合としての
神経科学・精神分析・臨床心理学の接点

2013年2月15日(金)16:00 ~ 19:00
滋賀大学大津サテライトプラザ
JR 大津駅前 平和堂アル・プラザ大津5階

滋賀大学健康セミナー・第2回神経精神分析ワークショップ 「神経精神分析の展開—異分野融合としての：神経科学・精神分析・臨床心理学の接点」

神経精神分析とは何でしょうか？今日、神経科学的な方法論は、心理学や社会科学全般、そして哲学・倫理学にまで急速にその適応領域を拡大し続けており、私たちの精神世界を脳という「外部」から探求しようとするアプローチとして、唯一無二のものであるといえます。一方、精神分析という臨床実践は誕生してすでに110年を過ぎようとしています。精神世界の主観的経験をその「内部」から探索するうえで、現在でも最も強力な方法であると私たちは信じています。これら二つの方法から得られる経験知を接合すること—まだ開始されたばかりの新しい試みの全てを、とりあえず神経精神分析と名付けることができるでしょう。

それは「ニューロサイエンスかぶれ」の心理臨床の一流派といったものではありませんし、最新の「脳科学」のおかげで何か新しい治療技法をもたらされるというような便利はなしでもありません。ただ、フロイトが創始した精神分析という実践が臨床経験に基づいて絶えず変革されてきたという事実を確認するならば、そしてまた「無意識」といった精神分析の基礎概念さえもが、経験知の革新のなかで常に再発見され、特に神経科学の進歩に対して開かれていたという点を思い起こすなら、むしろ「神経精神分析」こそ、精神分析にとって唯一可能な正統性・探求の理念そのものというべきであろうと私たちは考えます。

私たち京都神経精神分析研究グループは、様々な臨床的背景は異なりながら、これまでに13回を数える国際神経精神分析協会の研究集会に参加し、臨床的実践を神経科学の知へと接合する試みを続けてきました。今回のワークショップでは、そうした研究の成果を紹介しながら、神経科学と精神分析、そして臨床心理学の間でいかなる形の対話が可能なのかという問いをさらに探求していきたいと考えます。こころの臨床に興味をお持ちのすべての研究者、そして神経科学に興味をお持ちの全ての臨床家の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

パネリスト

- 岸本寛史 高槻赤十字病院緩和ケア診療科医師 (内科医)
- 久保田泰考 滋賀大学保健管理センター准教授 (精神科医)
- 平尾和之 京都文教大学臨床心理学部准教授 (精神科医)
- 成田慶一 京都大学医学部附属病院探索医療センター研究員 (臨床心理士)

入場無料

参加のご登録は、滋賀大学保健管理センターTEL/FAX0749-27-1024まで

第2回神経精神分析ワークショップ

「神経精神分析の展開—異分野融合としての：神経科学・精神分析・臨床心理学の接点」

プログラム

16:00–16:25

「うつ病/メランコリーを再考する—神経精神分析的視点から」

久保田泰考

滋賀大学 保健管理センター

今日のうつ病臨床をめぐる状況—すなわち記述精神医学レベルでの混乱、心因・身体因(あるいは神経学的基盤)に関する知見の乏しさ、そして治療をめぐる論争(薬物 vs. 認知行動療法)—を俯瞰しつつ、フロイトのメランコリー論(「悲哀とメランコリー」*Trauer und Melancholie* 1917)を再読すると、神経精神分析的にアクチュアルな問題系が先取りされていることに気づかされる。すなわち「うつ病者は何を知っているか(意識・無意識的に)?」という問いである。この観点から喪失体験とメランコリーの相違を整理し、さらにメランコリーにおける無意識の認知プロセスについて検討したい。

16:25–16:50

「神経精神分析の展開—心理療法と脳科学のコラボレーション」

平尾和之

京都文教大学 臨床心理学部

人の心に興味を持つ私たちにとって、心理的視点(個別的、主観的視点)と生物学的視点(普遍的、客観的視点)をどのようにつないでいくかは、大きなテーマである。精神分析と神経科学の橋渡しを試みるこの学際的なムーブメントのはじまりとここ10年ほどの展開を紹介しながら、二面的一元論というキーコンセプトから臨床実践に至るまで、神経精神分析の臨床・研究活動の広がりを概観したい。

17:00-17:25

「感情という現象へのアプローチ: 神経科学と臨床心理学の接合点を模索する」

成田 慶一

京都大学医学部附属病院 探索医療センター

感情という現象については、様々な領域から異なるアプローチで研究が進められてきたが、その中でも特に心理学における語彙論的アプローチと、近年の発展が著しい神経科学における生物学的アプローチの接合が近年取り組まれている。今回はこの接合に関連する現在進行中の研究の概要についてお話してみたい。

17:25-17:50

「Panksepp の感情理論に基づく感情的調律の意義について: 胃がん、がん性髄膜炎のケースから」

岸本 寛史

高槻赤十字病院 緩和ケア診療科

Panksepp の業績は、神経精神分析のニューロサイエンス面の重要な柱の一つとなっている。Affective Neuroscience (感情の神経科学) や、最近出版された The Archeology of Mind (こころの考古学) にそのエッセンスが集約されている。これらは、言語的交流を下支えする感情レベルの交流を理解するためのモデルを提供してくれるだけでなく、言語的交流に限界のある患者とのコミュニケーションを理解するための座標軸も与えてくれる。今回、筆者が最近看取った方で、胃がんのがん性髄膜炎のため言語的なやり取りには限界があった患者さんとの交流を、Panksepp の感情理論から理解しようと試みる。その経過から、affective attunement (感情的調律) と reattachment (再愛着形成) について 論じてみたい。

18:00-19:00

全体討議